

支店長の わがまち紹介 第77回



取手市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県取手市です。取手支店長が取手市長 藤井信吾氏にお話を伺いました。

取手市は「筑波経済月報」第32号(2016年3月)本コーナーにて紹介させていただきました。改めて、取手市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。



取手市長 藤井 信吾 氏



取手支店長 松岡 幸孝

■ 「ゆめみ野地区」の発展で若年層が増加

取手市は、昭和40年頃から15年程の間にベッドタウン化が進み、人口が急速に増加しました。そのため、現在その方々が一斉に定年を迎え、シルバー世代が増加しています。さらに、市内には住宅地や商業地へ転用できる土地が少ないことから、近年は人口が伸び悩み、ここ20年程は他市の

発展をうらやむような状態が続いていました。

しかし、平成23年の「ゆめみ野地区」まちびらきをきっかけに若年層の転入が増加しており、現在では、ゆめみ野地区が当市の新たな活力を生み出す場所となっています。

■ 健康増進で、市民が安心して歳を重ねられるまちへ

当市は、スマートウェルネス(「健幸」=健康で幸せ：身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること)のまちとなることを目指し、「健康づくり」と「幸せづくり」を2本の柱とした「スマートウェルネスとりでの推進」を策定し、施策を展開しています。

「健康づくり」では、取手ウェルネスプラザのトレーニングジム内において「e-wellnessシステム」を活用した健康運動教室を開催しています。同教室では、筑波大学の研究成果を基に一人ひとりの体力に合わせた個別運動プログラムが作成されます。有酸素運動と筋力トレーニングからなるプログラムを半年間実施することにより、参加者の8割以上に体力年齢の若返りが見られています。

また、「食」についても健康に暮らすための重要な要素と位置付け「おいしくバランスのとれた食生活」を推進しています。その取り組みの一つとして、市内の飲食店では、健康総合企業である株式会社タニタ監修の健康に配慮したメニューが提供されています。

「スマートウェルネスとりで」を推進するうえで私自身も研究会などに参加して勉強してきました。住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合「幸せリーグ」には平成25年の第1回から、今年20回目の開催となった「スマートウェルネス首長研究会」には第2回から参加しています。そこで得た知識・経験を活かし、平成27年には、市内にあるJR常磐線取手駅西口に「取手ウェルネスプラザ」を開設しました。今後も自治体間の連携を深め、「健幸」をまちづくりの基本に据えた政策を推進していきたいと考えています。



取手ウェルネスプラザ

■ 日常的にアートを感じるまち

当市は東京藝術大学取手校地（以下、藝大）が所在することもあり、藝大、市民、郷土作家および市が一体となって実行委員会を組織・運営するアートプロジェクトに取り組んでいます。

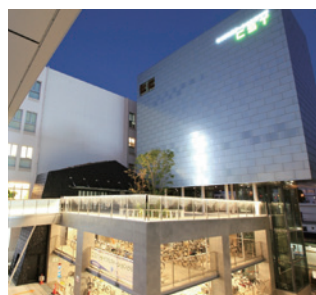
このプロジェクトでは、アートに関する様々なイベントを開催するだけでなく、当市を“アートのあるまち”として創造することを目指しています。そのため、市内には日常的にアートを感じることができる場所が数多くあります。

例えば、戸頭団地では、建物の壁面をキャンパスに見立てた立体作品が描かれており、“アート



戸頭団地と壁画

のある団地”として注目されています。また、高架下や橋、線路脇など市内17カ所にも壁画が点在しています。取手駅東口の歩道に設置した芸術作品展示台「ストリートアートステージ」には、藝大彫刻科（金属研究室）と工芸科（鍛金研究室）で制作した作品16点を展示しています。「ストリートアートステージ」の展示終了作品は、リングに加工し市内の公園などに展示しています。



サイクルステーションとりで

平成29年度からは、藝大映像研究科と連携し、駅前の駐輪場「サイクルステーションとりで」の壁面にアニメーションを投影するアートプロジェクトの放映を行っています。3回目の開催となる今年は、9月30日から10月4日まで開催しました。

期間中は、観客の声や動きに反応して映像が変化する「インタラクティブアート」をはじめ、市内イベントで親子が作ったキャラクターが登場する「クレイアニメ」、当市のオリジナルアニメ、今年度紫綬褒章を受章された東京藝術大学大学院教授の山村浩二氏の作品などを投影しました。

また、取手ウェルネスプラザや市民会館では、ジャズのイベントなども開催しています。市民会館は改修工事が完了し、今年4月1日、リニューアルオープンしました。客席を100席ほど減らし、シート幅を4cm広げたことで、座り心地が格段に向上しました。

さらに、会場も大変使いやすくなったことから、高麗屋松本幸四郎氏改め二代目松本白鸚、他高麗屋三代の襲名披露公演にご利用いただくなど、各方面から重宝されています。

■ 市民の芸術文化の関心を高める「市長賞」

当市では市民の芸術文化の関心を高めるために、藝大の優秀作品に対し、平成4年度から「取手市長賞」を授与しています。受賞作品は公共施設や公園などに展示し、市民をはじめ訪れた方々に親しまれてきました。

第28回目となる今年度は、音楽部門を新たに創設しました。受賞作品は、市のイベントなどで披露いたします。

■「たいけん美じゅつ場」で“アートを通じたコミュニケーション”

平成29年5月、当市は藝大、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社アトレと連携し、産官学の斬新なアイデアと連携により魅力あるまちづくりに取り組むことを目指し、「取手地区の地域発展に向けた四者連携協定」を締結しました。

この協定をもとに、今年12月、取手駅ビル「ボックスヒル取手」4階部分に、アートとコミュニケーションの拠点となる複合文化施設「たいけん美じゅつ場（以下、VIVA）」をオープンする予定です。



VIVA（イメージ）

VIVAでは、市民やアーティストが作品を発表する「とりでアートギャラリー」のほか、藝大の卒業・修了作品を保存・展示するオープンアーカイブなどを設置する予定です。また、専門家による収蔵品の意味付けや制作過程、観賞のポイントなどを教えてもらう対話型の観賞プログラムなども提供する予定です。

当市は、アートを通じて、ひと・もの・情報が行き交い、経験を共有する交流の中心として、多様な人々が社会に参加できる入り口となる「文化交流の拠点」としてVIVAを位置づけ、さらに“駅前力”という付加価値を付けることで、存在意義を高めていきたいと考えています。

■ 取手の「新たな求心力」を担う活力創造拠点の形成

私には、JR常磐線の取手駅と藤代駅の間地点である桑原地区に新しい市街地を形成したいという思いがあり、これまでに、市の関連計画に位置付けて、新市街地形成に向けた様々な準備を進めてきました。

桑原地区の開発では、土地利用の長期展望や地域経済への波及効果、多世代交流を生む都市空間の形成、当市への求心力向上などが期待できます。計画地の敷地規模は「イオンレイクタウン（越谷市）」の2倍に相当する約68haであり、もし実現

すれば関東随一の開発になります。

地元地権者の皆様には大型商業施設などを誘致したいという思いがあり、今年6月に桑原地区土地区画整理準備組合が設立されました。この区画整理事業において多くの人が集い、交流できる商業テーマパークの実現を目指し、当市も全面的に支援していきます。まずは、2年後の都市計画決定並びに事業認可に向け、準備してまいります。

■ A街区再開発で、賑わいと活力に満ちた魅力あるまちへ



A街区の整備（イメージ）

取手駅西口では、平成5年度から区画整理事業に着手し、順次、整備を行ってきました。今後は、いよいよ西口交通広場と隣接した街区の整備が始まります。西口交通広場北側に面した街区である

A街区（約0.7ha）では、平成28年度から地権者の皆様による市街地再開発事業の検討が進められています。住宅や商業・公共公益施設などが一体となった施設整備を目指しており、完成することにより駅周辺が賑わいと活力に満ちた魅力あるまちになると考えています。

今後はA街区の令和7年度の完成に向け、地権者の皆様への支援をはじめ、再開発事業に併せたA街区内部での交流・活動の場や緑化空間の整備、市民サービスの機能充実などを検討してまいります。

当市は、VIVAを含めた取手駅周辺の再整備と桑原地区の新市街地形成を進め、未来に向けたまちづくりに取り組んでまいります。

■ 筑波銀行に期待することは何ですか

当市は起業支援に力を入れておりますので、地元金融機関として、起業に対するサポートや地元商工業者へのご支援を引き続きお願いいたします。

また、VIVAをオープンするにあたり、筑波銀行つくば本部ビル内のギャラリーを訪問し、計画の参考にさせていただきました。今後もギャラリーに関する情報交換も含め、このつながりを大切にさせていただきたいと思っております。

取材日：2019年10月3日
写真提供：取手市